

2020年度 特別研究期間制度 適用者

| 所属 | 氏名 | 職位 | 種別 | 期間 | 主たる研究国 | 主たる研究先 | 研究題目 | 研究報告 | 備考 |
|----|-----------------|-----|------------|----------------------------|--------|--------------------------|---|---|--------------------------|
| 文 | 久野 陽一 | 教授 | 長期 (1年) | 2020.4.1 ～ 2021.3.31 | 日本 | ①青山学院大学 ②国会図書館 ③自宅 | 18世紀イギリス文学におけるオリエント物語と小説勃興論 | 研究期間が始まるのとほぼ同じ頃から新型コロナの影響により、国内外の図書館や資料館などの利用が大きく制限されることになったため、当初予定していた研究計画を大きく変更せざるを得なかった。その結果、調査する対象の資料として、公開されている電子資料、すでに入手済みのものに加えて、本学附属図書館が所蔵する資料を中心に調査・研究を遂行した。 | |
| | 割田 聖史 | 教授 | 長期 (1年) | 2020.4.1 ～ 2021.3.31 | 日本 | 青山学院大学 | ドイツ第二帝政とポーランド人 | 計画段階では本研究期間中の海外における史料調査を行う予定であったが、COVID-19の影響で海外渡航が困難となったため、研究期間中は国内において調査・研究を行った。本研究期間中は、ドイツ領ポーランドにおけるナショナリズム、ポーゼン州議会、コレラなどの感染症、精神病院といったテーマを対象として研究を行った。成果の一部はすでに公表されており、今後も論文などとして公表していく予定である。 | |
| | 水野 千依 | 教授 | 長期 (1年) | 2020.4.1 ～ 2021.3.31 | 日本 | 青山学院大学 | 西欧中、近世における思考・記憶の実践とイメージをめぐる歴史人類学的研究 | 初期ルネサンスの画僧フラ・アンジェリコの芸術における「形象・非形象・無形象」をめぐる問題を、古代修辞学や記憶術、ユダヤ教のメルカーバーなどの神秘主義的瞑想、初期キリスト教時代以降、探究されたきた「心の中に絵を描く/建築を築く」という文彩で語られる修道院の祈禱や瞑想法、12世紀の神学者サン＝ヴィクトルのフーゴーに代表される視覚的聖書注釈など、多様な伝統の中で培われてきた思考・宗教実践の中で考察し、形象の地位や機能、限界を考察した。さらに幻視、預言、神秘的啓示における形象の問題も視野に入れ、成果を単著『記憶の櫃（仮題）』として刊行予定である。 | |
| 経済 | 中村 まづる | 教授 | 長期 (1年) | 2020.4.1 ～ 2021.3.31 | 日本 | 青山学院大学 | 経済政策論における政策評価手法の展開：公共部門における市場化のメカニズム | 2013年末に勤草書房から出版した『テキストブック公共選択』の増刷に際し、この間の進展を含め新版として『公共選択論』を出版することとなり、2021年11月の刊行を目指して編集している。政策評価の実践として、国立大学教育研究評価、東京都特別報酬等審議会の委員を務めた。 | |
| 法 | 関 武志 | 教授 | 長期 (1年) | 2020.4.1 ～ 2021.3.31 | 日本 | 青山学院大学 | 担保制度に関する研究 | (1) 明治期における動産担保と不動産担保の制度はどのような仕組み、性質、機能をなしており、この制度が日本資本主義の生成と発展にどのように関わることで寄与してきたかを解明した。 (2) 水道事業者がした給水拒絶の当否に関する解釈問題を行政法と民法の視点から考察し、その解明を試みた。 (3) 日本独自の法制度である法定地上権制度が抱える解釈問題を、執行手続法の観点をも踏まえることで、新たな視角からの解明を行った。 | |
| 理工 | REEDY, David W. | 教授 | 長期 (1年) | 2020.4.1 ～ 2021.3.31 | 日本 | ①青山学院大学 ②日本全国の高校訪問他 | 高等学校での英語教育の現状 (英語による英語授業指導の浸透度・効果的教授法) | コロナ禍で訪問が実現した高校は：東京工業大学附属科学技術高等学校、学芸大附属高校、国際基督教大学高等学校、東京都立西高等学校、國學院大学久我山高等学校 | |
| 文 | DIAS, Joseph V. | 教授 | 長期 (1年) | 2020.4.1 ～ 2021.3.31 | 日本 | 青山学院大学 | Exploring telecollaborative exchanges of creative products Evaluating the effects of creative intercultural telecollaboration on language usage and learning | My research involved telecollaborative exchanges focusing on creative products and the role that service learning can play in such international exchanges. Based on this research, articles are being submitted for publication reporting on fruitful exchanges between students at New York University, Loyola Marymount, University and partner class of students at AGU studying intercultural communication. | 新型コロナ感染拡大の影響により、在外研究から変更 |
| 教育 | 岩下 誠 | 准教授 | 長期 (1年) | 2020.4.1 ～ 2021.3.31 | 日本 | 青山学院大学 | 19世紀アイルランドにおける公教育の宗派化に関する社会史的研究 サッカーリズムの歴史的な前提 民衆的アーカイブの構築による1970年代の再検討 | 本人が代表を務める科学研究として、論文を一本執筆し、査読付きの学会誌に投稿した。また海外の研究者との共著となる論文集の一章分を執筆。脱稿した。いずれも、2021年度の刊行が予定されている。また、共同研究に関しては、二回のオンライン研究会を開催して共同研究を進めるとともに、今後の研究成果の発表・公表の方法とスケジュールを確定した。研究成果の社会一般への還元としては、2020年10月に、一般読者向けの教育史入門書（共著）を刊行した。 | 新型コロナ感染拡大の影響により、在外研究から変更 |
| 経済 | 宮城島 要 | 准教授 | 長期 (1年) | 2020.4.1 ～ 2021.3.31 | 日本 | 青山学院大学 | 不確実性下の社会厚生判断 | 特別研究期間中に"Efficiency, equity, and social rationality under uncertainty"というタイトルの論文が理論経済学の国際査読誌Economic Theoryに採択された。また、共著論文"A defense of pluralist egalitarianism under severe uncertainty"(joint with Akira Inoue)を完成させた。この論文は、政治哲学の国際査読誌に投稿し、改訂要求を受けている。 | 新型コロナ感染拡大の影響により、在外研究から変更 |